


3 日々の授業研究の取組

(1) 全校で実施する授業研究から

1学期に1回、2学期に2回、3学期に1回、各学部から一つの授業をその対象とし、授業改善に取り組んできました。

そのうち、秋に実施の総合文化祭「うじ えん-JOY フェスタ」と重ねて行った研究授業に対していただいた上岡先生の指導助言は、生きる力をはぐくむ授業として何を大切にすべきか、全校で確認できるたいへん貴重な機会となりました。授業づくりにおいて大切なポイントが仕組まれていた例として、中学部1年生2クラス合同で行った生活単元学習『えん-JOY フェスタを成功させよう』を例に御指導いただくことで、私達は具体的な学びにつなげることができました。

以下、授業と上岡先生からの評価を紹介します。

単元名	生活単元学習『えん-JOY フェスタを成功させよう』	
対象の生徒	中学部1年2クラス。知的障害の生徒12名で自閉症等を併せ有する生徒もいる。発達の段階はB1～C段階である。	
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手指を使う活動をとおして自分たちで使う楽器を作ることができる。 ・チャフチャスの作製手順を分かりやすく人に伝えることができる。 ・場に応じた姿勢や言葉遣いで接客することができる。 ・作ったものを使って友達や地域の人と一緒に活動することができる。 	
地域学習の観点	<p>作成したポスターの学校周辺店舗への掲示依頼や、家族への招待状を郵便局へ投函する活動の他、近隣の京都文教大学のサークル「民音之会」に依頼し、楽器作りや演奏会練習、当日の合同演奏会で御協力いただく。</p> <p>ワークショップにより、他の人にチャフチャス（手首に付けて鳴らす南米の楽器）の作り方を教えるという場を設定し、場に応じた態度とコミュニケーションの力を高められるようにしたい。学校や家族以外の人たちと一緒に活動し、また地域の方に本校の生徒の日々の学習活動を知ってもらうことにより、将来地域で生きていくための橋渡しとなればと考える。</p>	
取組の実際	<p>《紐を切るコーナー》</p> <p>はさみや補助具など具体的操作が必要な分かりやすい設定により、自信をもって積極的にやりとりできました。</p>	

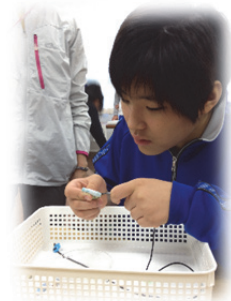
《仕上げコーナー》

6つの種類のバンドの中から選んでもらい、できた部品の取り付け。一度見本を見せた後、実際にお客さんに作っていただきました。



《記念撮影コーナー》

「いきますよ～！ハイ、チーズ！！」元気な掛け声で記念写真を撮ります。機械操作が得意な生徒はプリンター操作で写真仕上げです。



＜「基礎的な学習の時間」と連動＞

継続した取組を楽器のアームバンド作りにも生かします。自分の活動が誰かの役に立っているという役立ち感を。

ワークショップ後には、学年全員で「民音之会」の皆さんと発表。客席でもワークショップで作った楽器を鳴らしていただき、一体となったアンデス音楽の生演奏。曲に合わせて竹ダンスも披露しました。



《上岡先生からの授業評価》

- ・ 生徒一人一人に役割が与えられている。
- ・ 役割を主体的に果たすことのできる仕組が作られている。
- ・ 責任をもって課題や役割を主体的に果たすこと、それが生きる力につながる。
そのためには、考えたり判断したり見通しをもって主体的に行動できる学習が設定されているかどうかポイント
- ・ 本授業にはそれがしっかりと仕組まれていることが高く評価できるが、授業の質を高めるためには、さらにそれぞれの役割に求める力や役割の交代等工夫が必要

また、上岡先生からビデオレターでいただいた御助言は、私達の財産の一つとなりました。

上岡先生の 助言より

良い授業とは

ポイントは次の3つが揃っていること

「できること」「分かること」「見通しをもつこと」

できれば、子どもは行動する。

でも分からなければやる気が起こらない。

分かるということは目的が分かるということ

目的が分からなければやる気が起こらない。

やる気・意欲を維持するには、見通し、ゴールがわかることが必要

この三つがないと良い授業とは言えない。

仮に授業ができたとしても、生きる力にはつながらない。

そういう授業を設定すること

指示と主体性について

●指示と、それに対する子どもの3とおりの反応

①指示しても動けない、②指示どおりに動く、③指示以上に動く

指示以上に動けるような子どもでないと、生きる力にはつながらない

●2つの主体性

①積極的主体性…指示しなくても積極的に動ける

②消極的主体性…指示されたら主体的に動ける

消極的主体性では生きる力にはつながらない

消極的主体性を積極的主体性に変えるにはどうしたらよいか、それを引き出すために必要なのは「地域学習」である。

「地域学習」を中心に、積極的主体性を引き出す授業を。

2学期に実施した全校研究会の研究授業について、このあとのページで紹介します。
(実践紹介文中の発達の段階については、目次の裏面に説明しています。)